

香取遺産

vol.136

豊玉姫神社 「大山柏の神号額と良文貝塚」

豊玉姫神社は、市の南東部、貝塚地区に鎮座する古社で、祭神は豊玉姫尊です。

社伝では、景光天皇の皇子・日本武尊の東征の際、相模の国から総の国へ船で向かう途中、海上安全を海神に祈ったところ、無事に上陸できたことから、当地に海神の姫である豊玉姫尊を祀ったことが由緒となっています。

古くは、編玉郷の総鎮守として大宮大明神を称し、地区内の高台に鎮座していましたが、風害のために康和2年(1100)に現在地へ移転、新宮大明神とあらためたようです。明治5年(1872)になり豊玉姫神社と改称されました。

本殿内には、慶長7年(1602)、慶長15年(1610)、元和5年(1619)などの棟札が残されているようですが、現在の本殿は宝暦7年(1757)に改築されたもので、その後、昭和55年(1980)に大修理を行い、屋根も茅葺きから銅板葺きになりました。

祭典は4月8日の例祭や10月19日の流鏡馬祭などがありますが、特に盛大なのは20年毎に催行される式年鉾子大神幸祭です。鉾子みゆき、大みゆきとも呼ばれます。康和4年を起源とし、東大社(東庄町宮本)、雷神社(旭市見広)とともに、鉾子の外川まで神輿渡御する祭です。

現在は自動車を用いますが、かつては沿道各区の人々により神輿は担ぎ継がれていたそうです。ちなみに、前回は平成22年(2010)4月10日から12日までの三日間行われました。

ところで、拝殿正面にかかる神号額には「豊玉姫尊 従三位公爵大山柏謹書」とあります。これは、大山巖元帥の次男で、大正・昭和期の考古学者であった大山柏により、昭和3年(1928)10月、揮毫・奉納されたものです。大山柏が代表を務めた大山史前学研究所と地元有志により、昭和2年と同4年に良文貝塚の発掘調査が行われ、多くの土器や骨格器などが発掘されました。その成果により、良文貝塚が国史跡に指定されています。

なお、この時に出土した県指定文化財の「香炉形顔面付土器」は、今も地元保存会で保管されています。通常は非公開ですが、この11月3日には豊玉姫神社にて公開されます。

生涯学習課 050-12224



①豊玉姫神社②香炉形顔面付土器③大山柏の神号額④式年鉾子大神幸祭での神輿渡御